

まんのう町教育委員会だより

爽そうふう風

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 47

令和7年【2025】
2月1日 発行



特集 語りかける掲示

Contents

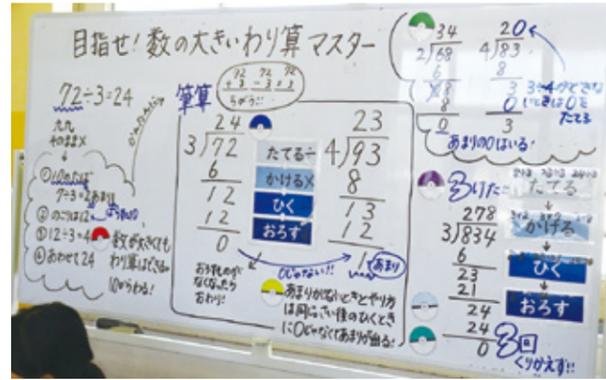
P.6～7 園・学校ウォッチング
四条小学校・高篠こども園

P.8 ホットニュース
P.9 シリーズ「声」

P.10～11 こども美術館



社会科(5年)



算数科(4年)

ほとんどの教科を担当が教えている小学校では、教室の側面などに、国語や算数、社会などの学習の途中経過や既習事項が掲示されています。

子どもたちはこの掲示を見て、既習事項を振り返ったり既習事項とつないだりしながら学習を進めることができます。また、休み時間に自然と目に入るので、既習事項の定着にもつながります。

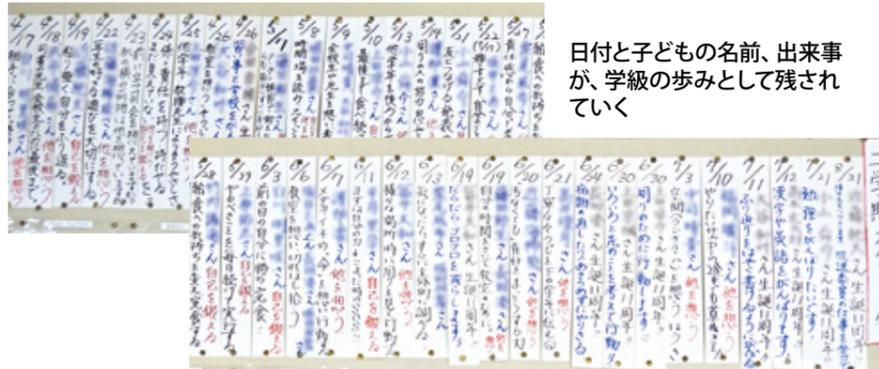
語 り か け る 掲 示

学校に一歩足を踏み入ると、玄関から廊下、教室に至るまで、様々な掲示が目にとまります。これらは、どんな役割を果たしているのでしょうか。

学校環境の一部としてある掲示。それらは、そこで生活する教師や子どもたちの手で思いを込めて作られ、それがふさわしい場所に意図をもって掲げられます。それらは、無言でそこにありながら、常に子どもたちに語りかけ、大きな影響を与えているのです。

学校で見られる様々な掲示を、その役割とともに見ていきましょう。

その学級らしさを形づくる



日付と子どもの名前、出来事が、学級の歩みとして残されていく

担任からのメッセージや学級のあゆみ、子どもたちの声を掲示することにより、教室には、日ごとにその学級らしさが形づくられていきます。それは、その学級の団結力や仲間意識を高め、力を合わせてよりよく生きていこうとする意欲を喚起します。



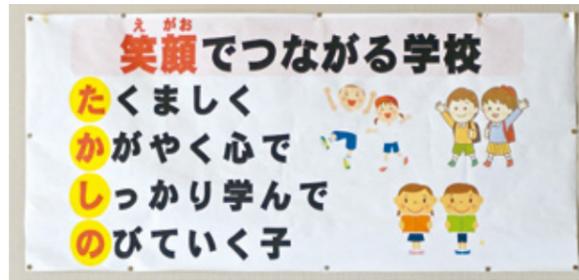
掲示物一つ一つに、担任の伝えたい思いがこもっている



一つ一つの出来事が学級の宝。そんな宝が一つ、また一つと増えていく

目標を示し、その共有を呼びかける

めざす子ども像(児童玄関)



校訓(ランチルーム)



学級目標(教室前面)



学級目標(教室背面)

学校には、先生と子どもたちが共有すべき目標があり、それらは玄関や教室などに掲示されています。めざす方向や目標を常に目にすることは、先生や子どもたちの共通認識を深め、ともに目標に向かっていこうとする意識や意欲を高めます。

学習の成果を知らせる

お手本マノート



手本にしてほしい 自主勉強のしかた

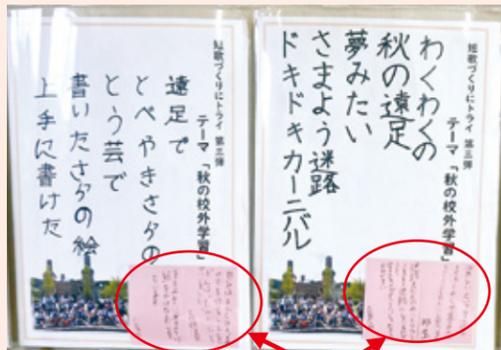
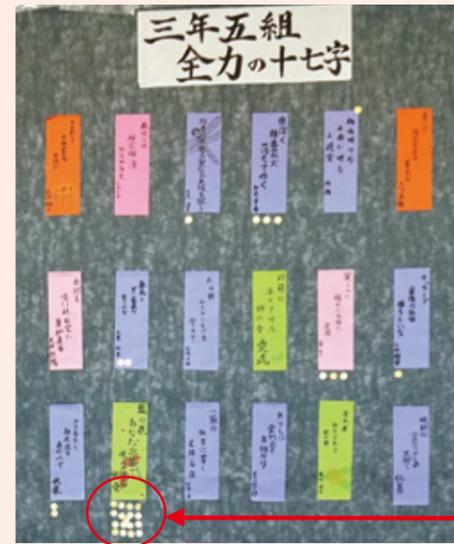
絵画



立体作品

教室や廊下などには、習字や絵画、工作、作文など、子どもの作品がたくさん掲示してあります。教師が記入した評価や制作者のコメントを読むと、その作品を見る視点やそのよさ、作品に込めた思いなどを知ることができ、さらに自分の作品を振り返るきっかけにもなるなど、たくさんの学びが生まれます。

また、自分以外の学年の作品を見ることは、他学年が学習していることに興味を持たせたり、「自分も〇年になったら…」と次の学年への期待感を高めたりもします。



掲示に、子どもや先生がコメントや感想を寄せる

「遠足」をテーマに詠んだ短歌にクラスメイトが寄せた感想 (長炭小:教室)

お気に入りの俳句に先生方が貼ったシール (満濃中:オープンスペース)



楽しかった行事の思い出を共有する (満濃中:オープンスペース)

写真で語りかける掲示

自分や友だちの姿をみて互いを認め合う (長炭小:階段)



園や学校で見つけた いろいろな掲示

掲示は、飾りではありません。学習の場、そして生活の場である学校で、子どもたちに様々なことを語りかけ、また、時には子どもたちから語りかけられながら、意図をもってそこにあります。ですから、1年中変わらず同じ場所にあり続けるものもあれば、場所は同じでも内容が少しずつ変化していくもの、時期によって全く別の物に貼りかえられるものなど、そのあり方は様々です。

思いやり心を呼び起こす掲示



壁に貼り付いたさなぎを知らせる (満濃南小:廊下)

さわらないでね。になるじゅんぴちゅう。

みんなのために (ねこもふくめて)、周りを見てやさしく そっと戸を閉めましょう。

戸を閉めるときの注意を促す (長炭小:校舎の外と内の境目)



高篠小



琴南小



満濃南小

子どもが本を読みたくなるような楽しい掲示が、どこの学校図書館にも見られる。

読書活動に誘う掲示

子どもたちから呼びかける掲示



よい挨拶を広めるための写真を掲示する掲示委員 (仲南小:児童玄関)

メジャーを使って空気を入れるよう、体育委員からの呼びかけ (仲南小:体育倉庫入口)

地域の話題とつながる掲示



園児が書いたコウノトリへの手紙 (長炭こども園:コウノトリに見えるよう庭に)

1年生が力を合わせてつくったコウノトリ (琴南小:教室)



保護者に伝える掲示



(仲南こども園)

子どもがまだ幼いこども園では、園であった出来事を掲示にして保護者に伝えていく。掲示の内容がきっかけとなり、保育者や子どもと会話はずんだります。



(長炭こども園)



(四条こども園)

四条小学校では、各学年ごとに活動内容を考え、全校生や地域に働きかける「四条っ子リーダープロジェクト」を推進して、よりよい学校をめざしています。

児童会活動や委員会活動から始まった自主・自律の動きを低・中学年にも広げ、学校全体の気風にまで高めたいという願いから、昨年度の「〇〇リーダー」となり、全校生や地域に働きかけてきました。

本年度のリーダー名は次の通りです。

- 1年生 あいさつリーダー
- 2年生 ほかほかリーダー
- 3年生 たからものリーダー
- 4年生 ハッピースマイルリーダー
- 5年生 元気もりもりリーダー
- 6年生 もりあげいっせいリーダー

ひまわりの黄色い魔法で6年生がもりあげます

6年生のリーダー名にある3つの「いっせい」という言葉には、「四条小を盛り上げる」「まんのつ町を盛り上げる」「活動を通して自分たちも成長する」という思いが込められています。

まんのつ町が、ひまわりを通して町おこしをしていることを知った子どもたちは、この活動に協力することで、学校や町を盛り上げていきたいと考えました。

全校生に働きかける

まず、学校をひまわりの黄色い魔法で明るく雰囲気にするために、学級園や校庭でひまわりを育てました。町内でひまわりオイルを製造・販売しているサンフラワーマんのうの協力を得て、収穫した種からオイルも採取しました。

次に、ひまわりやそれを使った特産品のよさを伝えようと、以下のような活動に取り組みました。



子どもたちの考えたスマイルキャラクター



歌で伝える

ひまわり石鹸、ひまわりコロソケ...

給食でひまわりオイルを使った料理が出た時、童謡「きりぎりす星」の音楽にのせて、子どもたちが作詞した歌が流れてきます。どの学年でも、放送に合わせて身体を揺らす姿が見られました。

掲示物で伝える

掲示したひまわりの秘密を問うクイズには、たくさんのお返答が寄せられていました。これ以外にも俳句やオリジナルキャラクターが登場する4コマ漫画など、表現方法は多様で子どもたちの発想の豊かさに驚かされました。

全員が同じではなく、一人ひとりの個性を生かした活動が展開できるのも、リーダープロジェクトのよさです。



子どもたちの手でよりよい学校をつくる

四条小学校

保護者や地域に働きかける

11月に行われた四条っ子フェスタでは、これまでの活動の内容と今後の地域への働きかけを、魔法使いを題材にした劇にして伝えました。「ひまわりの約束」の合奏が終わると、大きな拍手が体育館に響きました。

12月からは、ひまわりを使った特産品のよさや料理のレシピなどをポスターにして、四条公民館や町立図書館、町役場ロビーに展示しました。また、同様の内容を四条小学校のホームページにも掲載しました。

保護者や地域の人々からの反響は大きく、子どもたちも自分たちの活動に自信を深めました。同時に、社会に前向きに働きかける大切さを感じていました。



高篠こども園の園庭には、象頭山や高篠小学校が眺められる小高い築山があります。そのふもとから園内に小川が流れています。毎日変わる景色を見て、季節の移り変わりを感じ、たくさんの出合いをみんなで楽しんでいきます。自然と関わる中で、子どもが自分で考え、気づき、やってみようとする意欲は、非認知能力の育みにきつこうなると考えています。

一人ひとりに自分らしく主体的に行動しようとする力を身に付けさせたいと願い、日々取り組んでいます。

地域の温かさが子どもの育ちに

全園児が参加した高篠公民館まつりでは、餅つき、団子汁のふるまいや芸能コーナーでフラダンスの体験をしました。

団子汁のふるまいでは、喉に詰まらせないように団子の代わりになんかを入れた餅つき、みんなでおいしくいただきました。餅つきでは、昔ながらの杵と臼で「べったんべったん」の掛け声に合わせて、全員がつかましました。地域の方の温かさにふれ、地域全体で子どもを育ててくださることは、子どもたちの心を豊かにすることにつながっていると感じます。

フラダンスの体験では、振り付けの意味や髪飾り、首に付けるレイに関心をもちました。園に戻って、数珠玉でレイを作ったり、ハワイアン音楽に合わせて踊ったりして楽しみました。



子どもが自ら育とうとする力を信じて!

高篠こども園



子どもたちの興味・関心が遊びに、そして園行事に

9月に、「しじょうじょう寺の狸ばやし」の紙芝居を見たことや、誰もいないのに自然に玄関の扉が開いたことから、子どもたちはたぬきが化かしたきたのかもしれないとたぬきフームになりました。

チャレンジ保育の時、たぬきがこども園にやってきたことが、さらに子どもたちの思いに火をつけ、どんな些細なことでも、たぬきの仕業かな、おぼけかな、妖怪かもと、ますます興味・関心が高まりました。夢中で絵本を読んだり、タブレットで調べたりして、園生活の中にたぬきや妖怪はなくてはならないものになっていきました。自分の好きな妖怪ペーパーサートを作り「妖怪しりとり」の歌を誕生会で披露し、全園児で楽しみました。その後、ペーパーサートのかわりに、子ども自らがたぬきや妖怪になって遊ぶようになりました。遊びの勢いは止まることなく、ますます進んでいきました。

12月の生活発表会では、家族やお客さんが見守る中、妖怪になりきって「妖怪しりとりあお組バージョン」の創作劇を披露しました。

このように、子どもたちの興味関心は、遊びへと発展しました。そして、絵本や様々な人やものとの出会いや関わりが、さらに意欲をかき立て、豊かな発想を生み、創作劇や遊びにつながっています。



おいしく楽しく食べる「たかしのきつち」オープン!

子どもも大人も大好きなレストランやカフェ、ちよっとしたお出かけ気分、ウキウキして食べる食事は本当においしいです。そんな給食の時間には、一人ひとりの顔写真入りの食券を持って食べに行くスタイルの「たかしのきつち」をオープンしました。

普段から異年齢児同士が仲良しなので、一緒に好きな場所を選び、会話をしながら給食を食べています。苦手なものがあっても、「見て、よく噛んだらおいしいよ」と年少児に話す年長児の姿があったり、「今日は、お部屋で食べたから、ウーバーイツ(宅配)します」と部屋に持って行って食べたりもします。臨機応変に遊び心を持ってこども園での生活をみんなで楽しんでいます。



園庭では、春には一面にタンポポやクローバーの花が咲き、夏にはたくさんのお虫が遊びに来て、秋には木の葉が黄色や赤に色づき、冬には木枯らしが吹いて落ち葉が舞います。今年、初めて「へびうり」を育てました。大きく長くまるまると育った「へびうり」の有様に、子どもと一緒に先生方も童心に帰って大騒ぎ!へびうりのカレー炒めは美味でした。

これからも、地域や家庭との連携を深め、地域の中のこと園として、いろいろな場面で友だちやたくさんの人との関わりを通して、自分で考えて主体的に行動する子どもに成長するよう取り組めます。



第33回 ICTの活用を進める!!

一人1台のタブレット端末使用が始まって3年。各学校・園では、ICTを活用して、様々な教育活動を進めています。今回は、学校におけるICTの活用を中心になって進めている情報担当の先生に、各学校の取り組みや思いを聞きました。

学びを広げるICTの活用

学校では、児童が学習などにタブレット端末を積極的に使用する機会が増えていきます。本校では、よりタブレット端末の活用を進めるために、持ち帰りを始めています。3年生の持ち帰りの事例について紹介します。

1つ目は、国語科のローマ字タイピング学習です。9月からICT支援員と一緒にコンピュータ室で、月に1回程度タイピングの練習に取り組んでいます。学習を進めることに児童のタイピング速度は、どんどん速くなっていききました。授業の終わりに、児童から、「もう終わりなんー!」「もっとしたい!」という声がたくさん上がっていました。その時「タブレットを持ち帰っていいよ」と、声をかければよかったです。まだ持ち帰るための準備ができていませんでした。そこで、自分から学びたいと感じている時がチャンスだと思い、すぐにクラスで持ち帰りのルールについて話し合い、準備をしました。

2つ目は、国語科でレポートを書く時にタブレット端末を利用しました。資料を集めて写真に撮ったりインターネットで検索したり、タブレット端末を使って調べられるようにしました。授業中に十分な時間を確保していたつもりでしたが「家でもっと調べていいですか」と、授業が終わって児童が相談に来ました。今回はすぐに持ち帰っていいことを伝えました。すると、「私も」「私も」と声が上がりました。家庭での学習の幅が広がったと感じました。

今回は学校での学習の続きとして、タブレット端末を持ち帰りましたが、今後は「学校で学習した内容で気になることがあるから調べよう」「理科の時間に学習したことについてこういうことなのかな?写真撮ってみんなに見せよう」といった、家庭学習で見つけたことや調べたことを学校での学習に生かしているように持ち帰りをしていきたいと思っています。



満濃南小学校 教諭 吉本 誠

頑張っています! 満中部活動



郡市新人大会 (個人の部: 3位まで)

部活名	結 果
剣 道	中野 湊 優勝
	松岡 勇志 準優勝
	横内 徹成 3位
	藤井 翔平 3位
柔 道	男子 55kg級 優勝
	女子 3位
卓 球	男子 シングルス 3位
	男子 ダブルス 優勝
	女子 シングルス 優勝
	女子 シングルス 準優勝
	女子 シングルス 3位
	女子 シングルス 3位



郡市新人大会 (団体の部: 3位まで)

部活名	結 果
剣 道	男子 優勝
	女子 優勝
軟 式 野 球	3位
バレーボール	男子 優勝
	女子 優勝
バスケットボール	男子 準優勝
	女子 3位
卓 球	男子 準優勝
	女子 優勝
ソフトテニス	男子 3位
	女子 準優勝
サ ッ カ ー	準優勝



県新人大会 (3位まで)

部 活 名	結 果
剣 道	男子団体の部 優勝
陸 上	男子共通走幅跳び 準優勝 中西 一真



※ 卓球は1月11日~12日、バレーボールは1月25日~26日に県新人大会があります。

教室の様子が変わっています

私が中学校時代、授業前に準備していたものといえば、教科書、ノート、筆記用具でした。しかし、今では一人1台端末が当たり前になり、毎朝充電ボックスから取り出すのが日課になっています。教室では、机の横にタブレット端末を保管しており、授業中に何か分からないことや気になることがあればタブレット端末で検索をする、そんな時代になりました。満濃中学校で行っているICTを活用した授業の様子を紹介します。

1つ目は、英語科で月に1回程度行われるオンライン英会話です。生徒一人ひとりが外国人講師と英語で会話をしながら「コミュニケーションを取っています。画面には講師の顔が映り、あらかじめ決めたテーマについて、ジェスチャーを交えながら会話をします。オンライン英会話が始まった当初、生徒は緊張した様子で、「今からや、やばい。緊張する…」などの声が聞こえていました。しかし、回数を重ねていくと、笑顔で「Hello」という声があちらこちらから聞こえてくるようになります。スムーズに会話をしている生徒が増えました。楽しそうに会話をしている姿が印象的です。

2つ目は、理科の自由進度学習です。単元の学習内容を、教師の指示ではなく、生徒の意志や判断によって、進める授業です。2年生の理科では協働学習支援ツール*を使用し、何を、誰と、どのように学ぶかを生徒自身が決めて、学習を進めています。タブレット端末で動画を見て理解したり、友だち同士で学びあったり、教師に質問したり、一つの教室の中で、多様な方法で学習する生徒がいます。そして、グループで探究レポートを作成する際には、タブレット端末を活用して効率よく作業を進めることができていると、もちろん、困っている生徒への支援も大切にしています。

また、今年度から教育委員会に新しくICT支援員が配置され、いつも支援をしてくれています。これからも、教育委員会と連携を取りながら子どもたちの学びを支え、教職員みんなで学校全体の生徒の成長を後押しできるように、ICT活用の可能性を広げていきます。

※協働学習支援ツール: タブレット端末を使用する学習で、教材や課題を配付したり、生徒や教員が使う端末の画面を共有したりできるソフトウェア



満濃中学校 教諭 井上 貴裕

学びの深まる秋

11月22日
仲南小学校で町教育委員会指定の研究発表会が開催されました

3つの学年の授業が公開されました。授業後の研究協議では、町内小・中学校・こども園の先生方が、授業から学んだことや改善すればよいことなどについて、熱心に話し合いました。



1年 国語

「ここがすごい! のりものじまん大かいをしよう! ~いろいろなふね~」



1年



2年 算数

「形はかせになろう! ~三角形と四角形~」



2年



6年 体育

「一点入魂!白熱! ソフトバレーボール大会までの道 ~チームのためにできること~」



6年

研究授業

研究協議



『さあ しゅっぱつだ!』
満濃南小1年 大西ひかる



『神社』
満濃中3年 内海 遙心



『そばの土寄せ』
琴南小5年 角原芽衣子



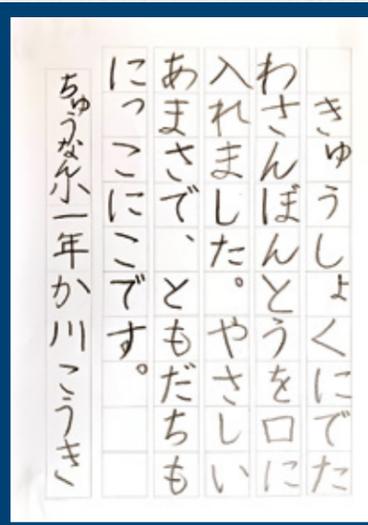
『海とクラリネットと私』
満濃中3年 竹下恵莉香



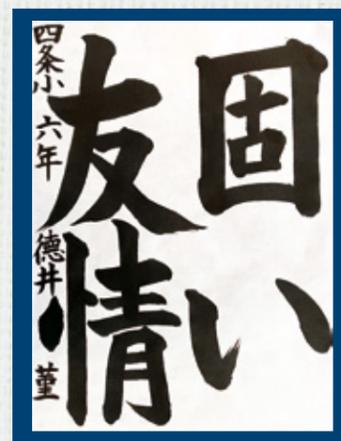
満濃中一年 佐々木心桜



三代の築城一睡のうちにして、大門の跡は「里へたにあり、赤衝が跡は田野となりて、金鷄山のみ形を残す。まづ高館に登れば北上川、南部より流るる大河なり。衣川は和泉が城を穿て、高館の下に大河は落ち入る。赤衝が跡は衣川を隔て、南部の城をさし固め、奥を防ぐと見えたり。さても我臣すくつてこの城にこもり、功名一時の業となる。因破れて山河あり、城春にして草青みたり。」と笠打ち数えて時の移るまで涙を流して待りぬ
夏草や兵どもが夢の跡
満濃中 三年 真 銅陽貴



きゅうしよくにでた
わさんぼんとうを口に
入れました。やさしい
あまやで、ともだちも
にっこりにこです。
ちゅうな小一年か川こうき



四条小六年 徳井 董

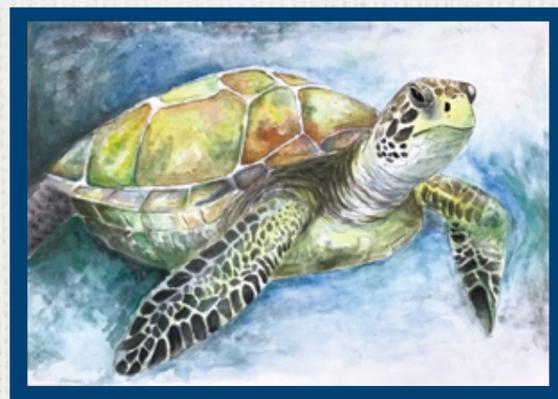
こども美術館

『令和6年度香川県小・中学校総合文化祭展覧会』に、仲多度・善通寺地区の代表として出品された作品です

(R7.1.10~1.12
高松市美術館)



『秋の夕焼け』
四条小4年 大平 茉央



『海 亀』
満濃中1年 前川 湘



『大切な校舎』
満濃南小6年 松下和佳奈



『ごんぎつね』
満濃南小4年 弓削 光春



四条小五年 徳井 翠



高嶺小四年 赤井心美

令和6年度 香川県小・中学校総合文化祭(アイデアロボットコンテスト・科学体験発表会)

第24回香川県中学校
アイデアロボットコンテスト
基礎部門 2位

満濃中学校1年
坂本 葵



県科学体験発表会出場
『光の散乱を用いた災害時に役立つ
ものづくり~スマホの
光をランタンに~』

満濃中学校2年
松岡和花夏



県科学体験発表会出場
『ジャンボタニシの好きな色調べ』

長炭小学校5年
上田 涼楓
上田 涼介



「小さな親切運動」作文コンクール
全国 小学生の部 入選
「当たり前にある親切」
四条小学校6年 松浦 龍也



学校は子どもたちが「学ぶ場」、そして「人として育つ場」です。そのため教師は、言葉で様々なメッセージを伝えますが、実は、教師の姿そのものも強力なメッセージです。「自分たちの先生が日々何を大切にしているか」は、ともに過ごす子どもたちの中に「心の物差し」として徐々に浸透していくのです。また掲示も、子どもたちが日々目にすることで、同様の働きをしています。

さて、伝えたいことを相手の心に届くように伝えるのは、それが大事なものであればあるほど難しいものです。以前、鹿苑寺（金閣寺）に向かうバスの中で、ガイドさんから次のような話を聞きました。鹿苑寺境内の茶室「夕佳亭（せっかてい）」に「鶯宿梅（おうしゅくばい）」という梅の木でできた違い棚があるそうで、その木にまつわる話です。

村上天皇の御代。御所の梅の木が枯れてしまい、代わりを探すよう命を受けた臣下がようやく探し当てた木、それは紀内侍（きのないし）の屋敷にありました。その見事な梅の木が御所に移されることになったとき、紀内侍は次のような歌を詠んで、その短冊を木の枝に結んだといひます。

勅なれば いともかしこし 鶯の
宿はと問はば いかが答へむ

天皇のご命令ですからとても恐れ多いことですが、鶯が「私の宿はどこに行ってしまったのですか？」と問うたならば、私はなんと答へればいいのでしょうか。

これを読んだ天皇は、「この枝で羽を休めていた鶯が、今頃困っていることだろう。不粹なことをしてしまった」と自分の行いを深く恥じ、すぐにこの木を元に戻させたということです。以来、この梅は「鶯宿梅」と呼ばれるようになりました。

紀内侍は紀貫之の娘。天皇の命に逆らうことなどできませんから、鶯に自分の思いを託して伝えようとしたのでしょう。こののち代わりの梅は見つからず、御所では桜の木を植えるようになったのだとか。一方鶯宿梅は、何度かあった枯死の危機を乗り越えて1千有余年。現在は、「林光院（その昔紀貫之の屋敷があった所に建つ寺）」の庭園で大切に守られているということです。

ところで、この紀内侍の思いの伝え方は、まさしく「私メッセージ」（米国の臨床心理学者トマス・ゴードン博士が提唱）でしょう。「私」を主語にすると出来事の責任を「私」に置くことになり、相手を責めることなく思いを伝えることができる、とゴードン博士は言います（『T.E.T.教師学』／小学館：1993）。もし紀内侍が、「私の大切な梅の木を持っていってしまうなんてひどいじゃありませんか」と、「あなた」を主語にして相手を責めるようなメッセージを送っていたら、鶯宿梅はどうなっていたでしょう。

伝えたいことは、たくさんある。それらを子どもの心に素直に届くように伝える工夫が、私たち大人には必要なのではないでしょうか。

(Y.T)



高篠こども園

表紙絵：佐々木 心桜（満濃中学校美術部1年）

次号予告
（4月1日発行）

特集
園・学校ウォッチング

体験活動のすすめ

琴南小学校・長炭こども園